

# 議会報告会 報告書

彦根市議会議長 谷口 典隆 様

広聴委員会 谷口 典隆

開催日時	令和4年1月18日(火) 19時00分～20時30分
開催場所	彦根市役所5階第2・3委員会室
出席議員	議員氏名(役割)
	谷口 典隆・上杉 正敏・辻 真理子・森田 充・馬場 和子・ 角井 英明・和田 一繁・伊藤 容子・長崎 任男
参加者数	滋賀大学 学生・教師 8名 一般参加(対面) 15名(うち、子ども7名) 一般参加(ZOOM) 2名 計 25名
内 容 (内容及び時間配分)	滋賀大学との連携・協力に係る協定に基づいて実施。新型コロナウイルス感染症拡大も考慮し、対面だけでなくオンライン(ZOOM)も活用し、広く参加者を募って開催した。 19:00-10 はじめに(議長あいさつ) 19:10-20 大学生による議員取材レポート! vol. 1 19:20-40 「市議会や議員のことを聞いてみよう!」 19:40-45 休憩・グループ change! 19:45-55 大学生による議員取材レポート! vol. 2 19:55-20 「市議会や議員のことを聞いてみよう!」 20:20-30 おわりに(副議長あいさつ)
主な質疑応答および考察	○「市議会や議員のことを聞いてみよう!」では、議員に対して下記のような質問等が出た。  グループA【馬場議員・角井議員】 ・福祉に力を入れたいという想いについて ・議員になろうと思ったきっかけは ・議員としての仕事量 ・1日のスケジュールについて ・兼業をされている議員はどうすみ分けしているのか ・もっと政治が身近なものだと伝える必要がある

- ・いろいろな観点から取り組んでほしい
- ・もっと子どもの意見を聞いてほしい
- ・環境問題に興味がある。木や緑などの自然を残してほしい
- ・大雪のときでも、どんな人も取りこぼさないような彦根市になってほしい。行政も親身になって考えてほしい
- ・子どもの提案を聞いてもらって実現すると政治に興味が変わく
- ・お茶はペットボトルでなく持参したほうが良い。マイクロプラスチックストーリーを見た。ニューヨークでは給食のプラスチックを無くしている。ごみのポイ捨て禁止など、もっと啓発を

---

#### グループ B【和田議員・森田議員】

- ・議員はいつもどんなことをしているのか
- ・環境のことでやっていることは
- ・彦根市で問題となっていることや課題は
- ・学力テストがタブレットになったが問題が見にくいので紙のほうがいい
- ・環境に目を向けてほしい。SDG s が守られるようにしてほしい
- ・組織内議員とはどのようなものか
- ・自営業に比べサラリーマンで議員は難しいのでは
- ・議員の間にやり遂げたいことは

---

#### グループ C【上杉議員・伊藤議員】

- ・市議会議員の仕事とは市民の声をあげることか
- ・個人的に市に言っても通らない。それを拾い上げてもらって議会で届けてもらえるのか
- ・市民の声が通るのはどれくらいの割合か
- ・公明党の人は、関係団体とそうでない人との線引きはあるのか
- ・彦根を経済面で活性化させるため、滋賀大が入って発想をしてもらおう、滋賀大の学生が起業できるようにしないとイケないと思うがどうか
- ・女性議員になるにあたって、制度設計の勉強はどこでされたのか

---

#### ○グループ D【辻議員・長崎議員】

- ・道路に穴が開いているなど、いろいろ気付いて行政に連絡するが、市役所と県の連携があまりできていないように思うので、そのようなセクションがあるとよい
- ・回転橋周囲にマリーナ施設を作ってほしい
- ・お二人の、市民の親しい人の年代はどの世代か
- ・子育て中の人でも議員になれるのか
- ・不登校の子で、長浜まで行っている子がいるが、学校に行っていると認められない。彦根市にも学校に付属する学童以外で、学校に行っていると認められるフリースクールがあるとよい

- ・子育て世代は働きたくても働けない。何もかもが働いている母親向けになっていない
- ・議員になって、何か実現できた施策などはあるか

#### ○考察

新たな試みとして開催された今回の議会報告会では、議員の職務ややり甲斐、これまでの活動を通じた施策の進捗などについて参加者より質問があり、議員は経験をもとに真摯に答える姿が印象的であった。一方で、専門性の高い施策についての提言なども参加者から出され、今回の議会報告会のテーマからやや外れた議論もあった。

進行役として参加した滋賀大学の学生は十分にその役割を果たしていただけたものとするが、一部の参加者から市の施策について要望されるなどした際に、話題を変えるなど多くの参加者の意見や質問を引き出せる工夫があれば、なおよかったと考える。

「議会や議員の仕事」についての範疇の捉え方が、議員・学生・参加者間で若干のズレが存在していたことは否めない事実であり、次回以降は十分な打ち合わせと周知を行った上で、「議員の仕事について」や「市の施策について」など、テーマを区分するなどの充実を図る必要があると考える。